

## 介護サービス中のトイレ事故

### ～よくある事例・悩みポイント・再発防止策～

介護サービス提供中の事故として、トイレを利用中、また、トイレに向かう際の事故について、報告が多くあがっています。よくある事故ですが、どのような再発防止策をしたらよいのか悩まれる方も多いと思います。

今回は提出いただいている事故報告の中から3つのよくある事例について、効果的な再発防止策を行っている事業所に取材を行いましたのでご紹介いたします。

#### [ よくある事例 ]

**事例 A** 利用者が一人でトイレに行った際の事故

**事例 B** 便座からの転落事故

**事例 C** 深夜の事故

# 事例 A

## 【利用者が一人でトイレに行った際の事故】

### 概要

レクリエーション活動をしている際にトイレに行きたくなった A さん。職員が近くにいなかったため、一人で歩いてトイレに行き、個室に入って脱衣をしている際に転倒してしまった。職員二人でレクリエーションを運営していたが、他の方が転倒しそうになっていてその対応をしており、A さんの動向に気づかなかった。

### 悩みポイント

大勢での活動のときに全体を職員の配置を決めて全員の様子を把握できるようにしているが、アクシデントがあった際は複数名で対応を行うために他の方の動きを把握できなくなってしまう。

### 再発防止策: 共用トイレに赤外線センサーの設置

居室に設置することが多いセンサーを共用のトイレに設置する。センサー受信機を食堂におき、トイレに入ったら受信機に情報が流れて音楽が流れる。音楽が鳴ったら食堂にいる職員がインカムで連携をとり、介助者がトイレに向かう。

図 1: 制外線センサーの設置例



### メリット

- ・職員が見ていない間に利用者がトイレに入ってもすぐに気づき対応できる

### 留意事項

- ・利用者全員に対して赤外線センサーの仕組みを説明して設置の了承を得る

### <実施事業所情報>

#### 事業所名

サンシャインきいれ

#### サービス種類

介護老人保健施設

#### 所在地

喜入前之浜町  
7808-1

#### 連絡先

099-343-1176

#### 取材日

令和 4 年 12 月 19 日

# 事例 B

## 【便座からの転落事故】

### 概要

介助者に体を支えてもらわないと姿勢保持が難しい B さん。ある日、介助者なしでトイレを試みたが便座から転落してしまった。

### 悩みポイント

1 人での姿勢保持は困難だが、介助者が付き添っている状況では利用者が緊張してしまう。利用者も一人で用を足すことを希望している。

### 再発防止策: トイレテーブルでの姿勢保持

車いすの方用のテーブルを、トイレ専用のテーブルとして再利用する。便座に座り、空いている穴に手をいれることで楽な姿勢を取れる。

図 2: トイレテーブル設置例



### メリット

- ・用をたすのに時間がかかる利用者が一人で姿勢保持できる。
- ・利用者が介助職員のいない一人の状態でもリラックスして用を足せる。
- ・既存のものを利用しているためコストがかからない。

### 留意事項

- ・本人や家族の同意を得たうえで利用する
- ・本人でも動かすことのできる重さや滑り具合に調節する

### <実施事業所情報>

#### 事業所名

グループホーム  
コーボー

#### サービス種類

認知症対応型  
共同生活介護

#### 所在地

西陵 5 丁目 12 番 3 号

#### 連絡先

099-283-6723

#### 取材日

令和 4 年 12 月 16 日

# 事例 C

## 【深夜の事故】

### 概要

深夜に夜勤担当職員が定期巡回で C さんの部屋を訪室したところ、C さんは寝ていた。その10分後に D さんの部屋のセンサーが反応したので D さんの部屋を訪室したところ特に異常はなかった。その後、職員ルームに戻ったところ、C さんの部屋のセンサーが反応していた。急いで C さんの部屋を訪室したが C さんは転倒していた。C さんはトイレに行こうとしたところだった。

### 悩みポイント

定期巡回を行っているが、深夜にトイレに行かれる方が多く、人数の少ない夜勤体制では対応が難しい。センサーが複数の部屋で反応した際はどの部屋を訪室したらよいか優先順位をつけなければならないが、その判断も訪室してみないと分からない。

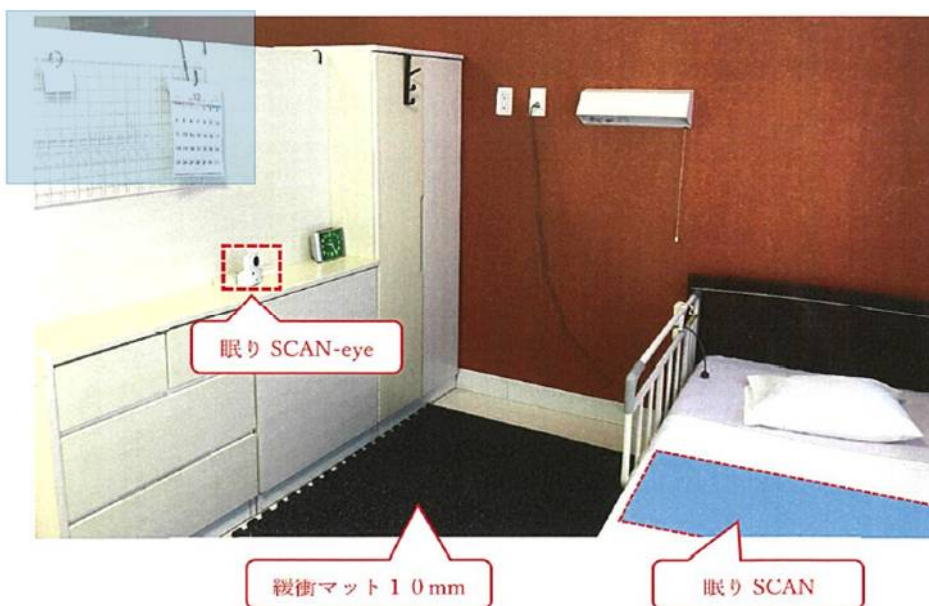
### 再発防止策: 見守りセンサー「眠り SCAN」を導入

眠り SCAN※1 で、より緊急性の高い「離床検知」を受けると眠り SCANeye※2 より画像が介護職員の持つスマートフォンに送られる。職員はその画像を見て緊急支援を行うか判断する。

※1 眠り SCAN はシート状のセンサー。ベッドのマットレスの下に敷くだけで、ベッド利用者の呼吸数や心拍数、覚醒、起き上がり、離床動作などを遠隔においてリアルタイムに把握できる。

※2 眠り SCANeye は居室の状態を動画で記録しモニターやスマートフォンへ情報送信ができる。

図 3: 眠り SCAN・眠り SCANeye 設置例



### <実施事業所情報>

#### 事業所名

喜入の里

#### サービス種類

介護老人福祉施設

#### 所在地

喜入前之浜町 7788

#### 連絡先

099-343-1168

#### 取材日

令和 4 年 12 月 19 日

図 4: 眠り SCAN・眠り SCANeye の利用イメージ図



※3 利用者のプライバシーを守るために解像度を変換してぼやかした動画

メリット

①モニタールームでの居室の状況把握

図 5: モニタールームの様子



図 6: 眠り SCAN モニター



→覚醒しているか就寝中かを訪室せずに判断できるため、夜勤の少人数体制でも対応ができる

## ②スマートフォンへの静止画像(シルエット化されていないもの)の送信

- すぐに駆け付けることができる
- 緊急支援が必要かどうかを判断できる
- 同時に複数の方への支援要請があった場合に優先順位をつけることができる

## ③睡眠日誌(就床時刻や起床時刻、離床回数、睡眠時間等の数字やグラフ)機能

- 利用者の生活リズムを把握し一人一人に合わせたサービスを提供できる

例)寝不足の方の歩行の見守りを強化する

昼夜逆転してしまっている方に明るい部屋で作業してもらい生活リズムを整える

- 家族にデータをもとにした利用者の報告ができる

## ④事故防止以外でのメリット

- ・呼吸数を把握することで睡眠中の無呼吸症候群の方を早期発見できる

## 留意事項

以下の二点について本人や家族に十分に説明し同意を得た場合のみ利用している

- ・眠り SCAN-eye を設置すること
- ・緊急性の高い場合はシルエット化されていない画像を見守りに用いること

## あしがき

「介護サービス中のトイレ事故～よくある事例・悩みポイント・再発防止策～」をお読みいただきありがとうございます。

事故件数の統計以外で事業所の方へ還元できることはないかと考えて行った取り組みでした。効果的な再発防止策を紹介したいと取材の依頼をしたところ、趣旨をご理解いただき、どの事業所さんも快く引き受けてくださいました。

参考にしたい、詳細を知りたいと思われた方は事例ごとに実施事業所情報を掲載しておりますので、是非、お話しをきいてみてください。事業所さん同士の情報交換のきっかけとなれば幸いです。

末尾になりましたが、今回ご協力いただきました事業所さんにはこころより感謝申し上げます。